

# いよいよ台風シーズン

# 浸水への備えは大丈夫？



## 特集 下水道の 雨水対策

今年も台風シーズンが近づき、大雨による浸水が心配です。そこで、市の雨水対策は怎么样了。そこで、市の広報番組「ちゃんねるよっかいち」の市民リポーター・木下千晶さんがポンプ場を訪れ、話を聞きました。



### 雨水は怎么样やって 排出されるの？

下水道は、生活排水や工場排水などの汚水を処理するとともに、雨水を排出して浸水被害を防ぐ役目があります。雨水は雨水排水管や水路を通り、ポンプ場から川や海に排出されています。

### 市内の雨水排水施設は 怎么样なっているの？

市内の雨水排水管の総延長は約三百二十キロメートルに及びます。また、管を流れてきた雨水を強制的に川や海へ排出するためのポンプ場が二十四カ所(ポンプ百四基)あり、道路の地下にも二十

### ポンプ場はどんな 役割を持っているの？

一カ所に三十一基のポンプが設置されています。そのほか、排水管やポンプ場の排水能力を補うため、諏訪公園の地下には二万四百トンの雨水を貯めることができる雨水調整池があります。

本市は、海岸線に沿って家屋が集中し、その多くが河川堤防より低い場所にあります。このため、これらの地域では雨水の大部分を自然排水することができず、ポンプを使って強制的に川や海に排出しています。ポンプ場では、日ごろからポンプやエンジンの点検、スクリーンの清掃などを行い、万一の時にポンプの能力が最大に発揮できるようにしています。

**遊水池**  
雨水はまずここに集まるのね



**自動除じん機**  
ごみの除去は自動的にできるのね



**ポンプ室**

5機のエンジンがズラリ頼もしそうに並んでいます

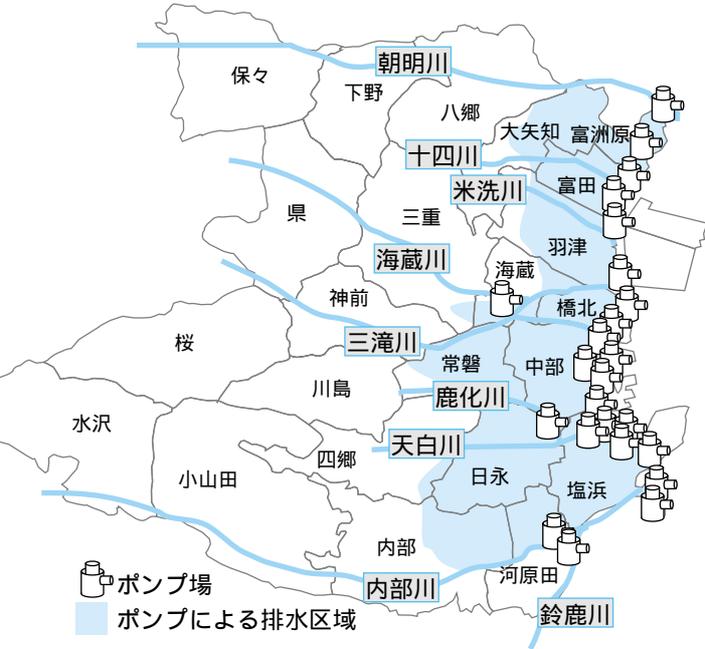


**制御室**

ここでポンプの運転をコントロールするのね

羽津ポンプ場

ポンプの分布と排水区域



**昨年の集中豪雨の被害**  
 昨年の集中豪雨では、二日間で本市の一年間の降雨量の約三分の一に当たる五七五ミリの雨量を記録しました。そのため、市内で死者一人、けが一人、床上浸水一七八戸、床下浸水一、九七五戸の被害が発生しました。

昨年の豪雨の時、ポンプ場はどうだったの？



昨年九月十一日の集中豪雨では、市の北部地域で一時間当たり最大一二〇ミリ、南部地域で最大八九ミリの雨が降りました。これは下水道計画を大きく上回った降水量で、ポンプ場の排水能力を超えてしまったため、水路から雨水があふれ出しました。また、稲刈り直後だったため、稲わらが水路やポンプ場に流れ込み、スクリーンに詰まって被害が拡大しました。

ポンプ場のスクリーンが詰まると大変！  
**川や水路にごみを流さないで！！**

雨が降ると水路やポンプ場にたくさんのごみが流れてきます。ビニールやペットボトルなどのごみがポンプ場のスクリーンに張り付くと、ポンプの能力を十分に発揮できません。そのほか、雨水が雨水管に流れ込むとき、落ち口にごみが詰まっていると、水が流れずに付近が浸水することもあります。川や水路にはもちろん、道路などにもビニールやペットボトルなどのごみを捨てないようにしましょう。また、農家のみなさんは、稲わらが流れないように、刈り取り後はなるべく早くすき込むようにしましょう。ごみが詰まってしまったスクリーン



今後の下水道事業は、昨年の集中豪雨を教訓として、雨水対策に重点を置いて進めます。現在整備中のポンプ場や排水路を早期に完成させるとともに、整備水準が低い地域については、雨水を一時的に貯める調整池などを整備し、排水能力の向上を図ります。また、水路の改良やポンプ場の管理体制の強化、水路の詰まりを防止するためのスクリーンの整備を行います。そのほか、地下に雨水を浸透させるため、道路の浸透性舗装を進めるほか、雨水浸透ますの設置促進など、総合的な治水対策に取り組みます。

また豪雨があったら心配だけど……



「最も印象に残ったのはポンプの大きさです。これなら大雨が降っても頼りになると思います。機器の整備も行き届いていて、雨への備えも万全。職員の方が、雨の日にごみが多く流れてきて困る」と言われましたが、私たち一人ひとりがごみを捨てたりしないようにしたいものです。

ポンプの大きさにビックリ

市民レポーター・木下千晶さん



排水口

ここから1分間に最大2,400トンもの雨水が川に排出されるそうです。



ポンプ

ポンプの口径は1.8メートル。ここを一気に水が流れるのね



エンジン(左)と減速機(右)

こんなに大きなエンジンだからパワーもすごいんだ。ポンプは減速機の下にあるのね

エンジンの点検

雨の日に備え、日ごろから入念に機器を整備しているのね

